

市ケ谷出版社発行

「新版 1級管工事施工管理技士 第一次検定 要点テキスト」

本書に下記のとおり記載内容の誤りがありました。ここに訂正致します。

大変ご迷惑をおかけしまして、申し訳ございません。

市ケ谷出版社・著者一同

頁	誤	正
109	第4章 空気調和・換気設備 確認テスト ●4・1 空気調和設備 (10) 天井放射冷房方式は、率効的に潜熱負荷を処理できるため快適性が高い。	第4章 空気調和・換気設備 確認テスト ●4・1 空気調和設備 (10) 天井放射冷房方式は、効率的に潜熱負荷を処理できるため快適性が高い。
110	確認テストの答えと解説 ●4・1 空気調和設備 (10) ○	確認テストの答えと解説 ●4・1 空気調和設備 (10) × 天井放射冷房方式は、放射熱（輻射熱）と穏やかな自然対流によって効率的に顕熱負荷を処理できるため室内の体感温度を下げることから冷風による冷房に比べ部屋の上下の温度ムラ、冷風によるコールドドラフトや騒音が無く快適性が高い。ただし表面温度が露点温度以下になった場合結露が発生するため、別途露点制御機能のある外調機や除湿器などにより湿度（除湿）制御が必要である。
239	第7章 施工管理法（知識） 7・5・3 ダクトの施工 (3) ダクト附属品 ⑫ 風量調整ダンパーの取付け位置は、エルボ部よりダクト幅の2倍程度離れた直線部分とする。	第7章 施工管理法（知識） 7・5・3 ダクトの施工 (3) ダクト付属品 ⑫ 風量調整ダンパーの取付け位置は、エルボ部よりダクト幅の8倍程度離れた直線部分とする。